





舍密開宗内篇卷十四

高橋中味堂
萬育藏書印

中味堂高橋
圖書之印

宇田川榕榕菴 重譯增註

亞鉛第二百三十三章

聖寇母 スピヤウトル

亞鉛ハ中等ノ熱ニ烱化ス或云列氏ニバ速ニ酸化ス熾紅セル甘塌ニ投スレバ煥然タル明

焰ヲ發シ其焰氣ニ中バ白色ノ酸化按亞鉛華或斐為リ空ニ冲ル錄所費亞綿

○亞鉛ハ特生ノ者無シ酸化ノ者土分鍍分ヲ含テ

鑛ヲ爲之即爐或硫化ノ貌聯達ト爲テ産ス○亞鉛
ハ東印度支那ノ産ヲ上品トシ歐邏巴臥斯刺爾ノ
産ハ鉛ヲ含テ下品トス諳厄利亞黃亞鉛ト稱スル
者ハ銅ヲ含ム一種東印度ニ答烏的奈劫ト稱スル
針條ヲ爲ス亞鉛アリ和蘭ノ商舶之ヲ賤價ニ得テ
銅ト鉛ヲ雜ヘ更ニ丁的奈劫ト名テ復夕貴貨ヲ以
テ東方諸國ニ賣ルト云

○水ヨリ重キ七倍合藥舍密曰六蓋器ニテ煨バ細
粒ト爲テ蓋ニ昇著ノ如シ之ヲ蒸餾亞鉛ト謂
フ此亞鉛ノ一殊性ナリ開器ニ煨バ焚ユ其焰絶夕

燐焰ニ類シ氣ニ遇バ酸化シテ白キ綿絮ノ如ク蜘蛛
網ノ如キ物ト爲リ飄々風ニ隨テ飛ヒ去ル此白絮
ヲ斐錄所費亞鉛ト名ク醫方ニ亞鉛華ト稱ノ治癩
ノ聖藥トス黃銅ヲ製スル家ノ天井ニ自ラ騰リ著
ク者ヲ去知亞ニト名ク○般劫莽曰亞鉛ハ水
素瓦斯ニ親和ス水素瓦斯亞鉛ヲ含タルヲ瓦斯喜
度羅厄涅聖ト謂フ

硫酸亞鉛第二百三十一章

ニキ、ハト、リ、オ、ル、ス、ワ、フ、ル、シ、レ、ニ、キ、ル、ニ
ル、リ、ア、パ、ラ、ゼ、ル、シ、ト、ガ、リ、空、ニ、ス、テ、ン、ギ

亞鉛ハ諸酸ニ溶解ス。硫酸ニ溶解スルキハ最精好ノ水素瓦斯ヲ發ス。第十四章註ス。其溶液ヲ蒸散スレバ端整ノ晶ヲ結ブ。即世所謂皓礬ニシテ硫酸亞鉛ナリ。

○按ニ近世局方所載硫酸亞鉛ノ製法ハ硫酸四弓ニ錮水十弓ヲ和シ東印度産ノ亞鉛碎末ヲ少許宛加テ溶ザルニ至リ尚試ニ亞鉛ノ小片ヲ投メ果メ復タ溶ザルヲ候ヒ常法ノ如ク晶ヲ結ハシム若シ亞鉛溶テ器底ニ澱スル黒物ハ炭素鍍按石類ナリ。

○廣義云硫酸亞鉛ノ晶ハ白色四瓣駢胎柱有柱身第十四圖尖體柱身共ニ二瓣ハ濶ク二瓣ハ狹ク百分



ハ硫酸四十分酸化亞鉛二十分結晶水四十分

亞鉛爆性第二百三十二章

亞鉛廣義云細末一分ニ消酸加里三分ヲ和シテ熾紅セル甘塙ニ投スレバ爆鳴ノ燃ユ

○廣義云亞鉛消酸加里ノ和劑ハ燒ケバ爆聲嘯ハシテ星花亂散ス故ニ炮術家火箭ノ藥ニ配合ス其燒後ニ殘ル物ハ全酸化亞鉛ト加里ナリ。○亞鉛ヲ細末スル法ハ亞鉛多少ニ拘ラズ甘塙ニ烱シ烱化ニ乗メ温メタル石臼ニ寫シ鍊杵ヲ以テ且攪セ且搗ケバ冷ナガラ細末ト爲ル之ヲ篩用フ

蒼鉛第二百五十三章

比斯繆母 蒼錫 阿斯ツト マルカシト アスガ
ラ一 空 子 蒼鉛 ノ 記 ス 所謂 白鉛 ハ 今 ノ 錫 蒼鉛 ハ 比
書ニ 三種ノ 鉛ヲ 記 ス 所謂 白鉛 ハ 今 ノ 錫 蒼鉛 ハ 比
斯繆 多 黒鉛 ハ 常ノ 鉛ナリ ○ 又 按ニ 蒼鉛 ハ 本邦
諸山ニ 出ル 白目一 名
伊豫 白目ナル ベシ

○諸書ヲ参考スルニ 蒼鉛ハ 佛蘭西 獨乙 波米^赤亞
ノ 銀坑ニ 産ス 銀光 鑑ルベク 色白 黃ニ 稍 紅色ヲ
帶ビ 質脆ノ 摧ケ 易ク 摧破ノ 處 砌紋アリテ 小葉或
小錢ヲ 鱗次スルガ 如シ 氣ニ 觸テ 鏽澀ヲ 生ゼズ 細
末スレバ 蒼色^{灰黒} ナリ 水ヨリ 重^{或云} 九倍有奇 九千
八百二十ニト 火ニ 煇解スル^ト 鉛錫ノ 間ニ 在テ 正

ニ四百六十度ナリ ○硫酸 消酸 消鹽酸^正 或 醋酸ニ 溶
解ス

消酸蒼鉛第二百五十四章

ビス、シ、ミ、ム、ラ、ト、リ、キ、ム、プ、ラ、シ、ピ、タ、ミ、ム、
ラス、ビス、ミ、チ、子、ウ、テ、ル、シ、ブ、ラ、シ、ラ、ス、ビス、
オ、ン、ド、ル、サル、ペ、ト、ル、シ、レ、ビス、ミ、ツ、ト、次、消、酸、
蒼鉛 オ、キ、セ、一、ミ、ス、ビス、シ、ツ、ト、酸、化、蒼、鉛、マ、ギ
ステ、リ、ウ、ム、ビス、ミ、ツ、ト、メ、ス、
トル、プ、ド、ル、ハ、ン、ビス、ミ、ツ、ト

蒼鉛ハ 消酸ニ 溶解ス 其溶液ニ 水ヲ 和スレバ 白粉沈
降ス 其粉ヲ 水洗メ 白色ノ 顔料トス之ヲ 蒼鉛白 又 伊
斯把尼亞白ト名ク 卽チ 酸化蒼鉛ナリ ○酸化蒼鉛ハ
硫^化水素瓦斯ニ 中^化バ 黒色ト爲ル

○和蘭局方次消酸蒼鉛製法

精好消酸ニ餾水同量ヲ和シ蒼鉛粗末ヲ取テ少許宛加テ溶解セザルニ至リ濾過シ濾清ヲ餾水。蒼鉛量ノ三十二倍中ニ滴和スレバ白色ノ粉沈降ス之ヲ漉紙上ニ傾ケ紙上ノ粉ヲ取り餾水ニテ洗フ二三回暖キ暗處ニ置キ乾シ玻瓈壺ニ納レ黑紙ヲ覆ヒ貯フ

○廣義云酸化蒼鉛ハ醫家ニテ痙攣胃痛ノ聖藥トシ閨人姬妾。臙脂ヲ和ノ粧顏ノ料トス香奩中ノ要品タリ唯又ク用レバ膚理枯燥ノ黃氣ヲ生シ或之

ヲ施メ硫^化水素瓦斯ニ觸レバ黑色ト爲ル

蒼鉛他金和性第二百三十五章

蒼鉛ハ他ノ金屬ニ和スレバ鎔化ヲ進ム蒼鉛八分ニ鉛五分。錫三分ヲ焔和シ或ハ蒼鉛三分ニ鉛一分錫五分ヲ焔和スル者ハ沸湯以下ノ熱ニ鎔化ス澆湯中ニ煮レバ湯底ニ在テ焔化ス

○或云蒼鉛四分ニ鉛二分ヲ焔和スル者ハ甚タ焔易シ針藥ニ用ヒ或ハ解剖家諸藏脉絡ニ注射シ而後藏腑ヲ腐爛スレバ此金質残留テ其細微ノ支末纏絡ノ道路眞ト貳ナキヲ觀ベシ○利氏人身究理

方本和書 ロ一セシムメテルノ方
蒼鉛五分 鉛三分 錫二分
共諸金極テ純粹ナルヲ要ス

篇云。肺ノ葡萄狀細胞ノ如キハ蒼鉛三分。鉛五分。錫
八分。瀕一分ヲ烱和スル者ヲ鎔ノ注射ス百九十七。第百二十九章第
七章

砒第二百三十六章

亞爾攝尼寇母 アルセニキ。メタルルシケ
ルペンコバルト。○俗名見銀山鼠取藥

砒亦金屬ナリ坊間所販ノ者ハ白色ノ酸化砒ヲ爲ス
此白酸化ヨリ砒金ヲ取ル法ハ白砒二分ニ黑熔散一
分ヲ和シ甘燭ニ納レ上ニ黑熔散ヲ置キ蓋ヲ覆ヒ粘
土ト砂ノ和泥ヲ以テ蓋際ヲ固封シ燭底ヲ燒バ砒還
元ノ上部ニ昇リ著ク○篤隆氏曰黑熔散ハ消酸加里

一分。酒石羅謨二分ヲ甘燭ニ煨タル者ヲ謂フ精製酒石

砒金ハ氣ニ曝セバ速ニ酸化シ黑色ト爲ル其性甚々
揮散シ易シ灼紅セル鍍板上ニ置バ白烟ト爲テ昇ル
其烟大蒜ノ臭氣アリ

○按ニ林娜斯ハ硫黃ノ類トス然レ可燃体ヲ加テ
鎔セバ玉分クルヲ以テ今ハ一種ノ金屬トス。方
形ノ鑛ヲ爲シ或ハ加爾基狀ヲ爲シ鍍格拔爾多錫。

蒼鉛ニ混シテ山ニ産ス按ニ漢産自然銅及
其一種切子
砒ハ所謂方形ノ砒鑛ナリ漢渡及和
産ノ蛇含石モ亦砒鑛ノ類ナルベシ

砒和諸酸第二百三十七章

砒ハ諸酸ニ溶解シ之ト和メ砒酸ヲ爲ス

○硫酸ハ煮沸ノ熱ヲ以テ砒ヲ溶ス但シ白色ノ酸化沈ム亞硫酸ニハ溶解セズ○消酸ヲ和メ消石灰斯及窒素瓦斯ヲ發シ其酸素ハ砒ニ和メ白砒亞砒ト爲リ或全硫酸ト爲ル共ニ後章ニ出

附録

加埵篤之流動燐フルイバール、カール、ホス

此ハ砒醋酸ニ和スル者ナリ氣ニ觸テ煙ヲ發ス故

ニ一名發烟砒酸アロクテヘ、アゼイン、ホクト

砒和銅爲白銅二百三十八章

砒ヲ銅ニ烱和スレバ白銅ト爲ル試ニ砒金少許ヲ小

銅板ノ間ニ挾ミ鍍線ヲ以テ縛定シ燒ハ板ノ裏面白
色ト爲ル

○白銅方ハ既ニ前ノ卷九二百十四章ニ出

白酸化砒二百三十九章

アルセニキム、アルビム、白砒、アルセニキ、ガラセ
砒玻璃、キツテ、コロイド、アルセニキ、アルセ
ニキム、アルセニキ、アクトス、アルセニキ、
アクトス、アルセニキ、亞砒酸

白酸化砒ハ大抵水ノ八十分ノ一溶解ス○篤隆氏曰

白砒ハ酸化砒ニ非ス一種ノ酸ナリ予嘗テ此ニ亞砒
酸ノ名ヲ署セリ

○亞砒酸ハ水八十分、沸湯十五分ニ溶ク其溶液ヲ

徐々ニ蒸散スレバ端整四面晶ヲ結フ徐々ニ昇華
スルモ亦四稜晶ヲ結ブ潤玲瓏トノ玻璃ノ如キ者
アリ○董花舍利別ヲ綠變シ他ノ薄弱ノ青色按母
類ヲ紅變ス○攝涅斐幾斯云亞砒酸百分ハ砒七
十五分。酸素二十五分ニ成ル

砒酸第二百四十章

アシダム、アルセニキム全砒酸
アルセニキール

白酸化砒亞砒酸ハ諸酸ニ溶解ス鹽酸ニ溶シ消酸ヲ加
テ乾マデ溜スレバ砒酸全砒酸ト為ル或酸化鹽酸ニ溶
スモ亦砒酸ヲ為ス按悉法列氏之法

○舍密原本砒酸製法

白砒ヲ鹽酸三分量ニ溶和シ煮沸シ熱ニ乗メ白砒
倍量ノ消酸ヲ加ヘ又煮テ蒸散シ乾セバ消酸分離
シ其酸素ハ白砒ニ親和メ砒酸トナリ其窒素ハ消
石瓦斯ト為テ飛散シ初砒ヲ溶シタル鹽酸モ亦瓦
斯ト為テ飛散ス○廣義ノ法ハ白砒ニ消酸六倍ヲ
加ヘ列篤爾多ニテ溜スレバ消酸ノ酸素一來ハ白
砒ニ和メ砒酸ヲ為シ一來ハ其窒素ト和メ赤烟消石
瓦ト為テ飛散ス
砒酸ハ色白ク質金屬ノ如ク烈火ニ煨テ揮散セズ

却テ玻瓈体ヲ爲ス但シ炭火ニ燒バ炭ニ和シ焚テ
 蒜臭アル毒烟ト爲ル久ク大氣ニ露セバ流動ス性
 猛烈ノ毒アリ白砒ヨリ甚シ酸性完ク備テ堇花舎
 利別ヲ紅變ス○攝涅斐幾斯曰砒酸百分ハ砒六十
 五分又三酸素三十四分又七ニ成ル

砒和亞爾加里第二百四十一章

アルセニキム、ヒキム恒砒
 セキキアルセキレハ肝色砒

白砒ハ燥濕兩道ニ因テ亞爾加里ニ和ス○白砒ニ消
 酸加里ヲ和シ熾紅セル甘塙ニ投シ煨バ砒酸加里
 一セキレカリヲ爲ス

○備要云白砒濕道ヲ以テ亞爾加里ニ和スレバ桂
 色ノ灰ヲ爲ス之ヲ肝色砒ト謂ヒ燥道ヲ以テ亞爾
 加里ニ和スル者ハ白シ古人之ヲ恆砒ト名ク○廣
 義云砒ハ燥道ニ由テ土類ニ和ス玻瓈ニ白砒少許
 ヲ和シ煇セバ一分ハ飛散シ一分ハ留テ玻瓈ニ和
 シ其成分ヲ和熟シ其調和ヲ團圓シ其汚色ヲ祛キ
 其瑩明ヲ増ス第九百六
 十二章

砒和硫黃第二百四十二章

アルセニキム、スワール、レール砒硫肝○アルセ
 ニキム、ムズム、ロル、ロル、ロル、ロル、ロル、ロル、
 アルガ、スワール、セニカ、レ、ロ、マ、イ、ン、紅、寶、石、砒、
 ロル、デ、ス、ワール、ハ、ン、キ、イト、漢、名、雞、冠、雄、黃、雞

冠石○ロイデ、マログデ、マテコロイド赤硫苗
漢名薰黄○ゲイレ、ゲズワール、ゲ、アルセキ黄
色硫ハオプリメント、漢名石黄、オプレメント、
ゲ、オプリメント

白硫ニ硫黄ヲ和シテ餹スレバ硫酸ヲ滴シ赤色光輝

アル物残ル即硫化硫ナリ或白硫ヲ水ニ溶シテ硫水

素瓦斯ヲ通スレバ黄色ノ渣墜沈ム亦硫化硫ナリ

○硫ハ燥濕兩道ヲ以テ能ク硫黄ニ和合シ和合ス

ル硫黄ノ多少ニ隨テ其色異ナリ硫黄最多キ者ハ

深紅色明瑩嬌豔硫黄少キ者ハ色黄ナリ硫四分硫

一分ハ赤色ヲ爲シ雄冠硫硫等分ハ橙皮黄赤硫硫

十分硫一分ハ黄色石黄ヲ爲ス○硫ハ至毒ノ金屬ト

雖氏多少ニ硫ニ和スレバ毒性減ス透明ノ赤硫ハ

毒最少ク黄硫ハ稍毒アリ暹羅人雄黄ヲ刻琢ノ盃

トシ酒ヲ飲ミ百病ヲ通治スト謂フ千七百三年把

之ヲ論ノ曰雄黄小毒無ニ非ス孟トシ飲テ何ノ害

無カラシ暹羅ハ南方温地ニ其ノ血液稠厚蒸發

氣多シ暹羅人ハ百葛榕安那我カ分量ノ二十倍ヲ

用テ尚惡心セザル者アリ黄孟ノ毒ヲ致サバ生理

存セハ茲ニ凡硫黄ハ金屬ノ毒ヲ抑制ス瀕ノ如キモ

硫ニ和メ銀朱ト爲リ黑瀕ト爲ル者ハ多服メ吐涎

セズ硫化亞爾加里第九章ハ瀕劑ノ瞑眩ヲ治スル

ガ如シ類推スベシ

悉肱列録第二百四十三章

グシケールス

悉肱列氏。白砒ヲ加里液ニ溶シテ硫酸銅液ニ和シ鮮麗綠色ノ顔料ヲ創製セリ之ヲ悉肱列緑ト謂フ外篇鑿定、酸化鹽酸酒條ヲ考ベシ

○廣義悉肱列緑ノ製法

硫酸銅一匕半ヲ沸湯十六彬篤ニ溶シ別ニ半炭酸加里一匕半白砒十弓ヲ沸湯五彬篤ニ溶シ此二液ヲ温ニ乗ノ和合スレバ美綠色ノ塗粉ヲ靛ス之ヲ沈定メ上清ヲ棄。數々水洗シ其靛ヲ漉布上ニ傾ケ乾ス所謂悉肱列緑ナリ

安質没尼第二百四十四章

アンチモニ。ウム、クム、ラム、ナニールレイキ、ゲズ
ワールフルデ、スピース、ガラス、スピース、ガラス
シルビレ、ラム、スチビ、ウム、漢名無し
豫州方言マテガラ、玩石家ニ錫、松脂云

世所謂安質没尼ハ私知彪母原安質金ト稱シ古安質

私知彪母ニノ硫黄ヲ蘊ム者ナリ故ニ之ヲ先ツ烘煨

改ム以下同ノ硫分ヲ祛キ而後黑熔散第二章三ヲ和メ熔化スレ

バ私知彪母ト爲ル

○備要云安質没尼百分ハ私知彪母七十四分。硫黄二十六分ヲ以テ成ル安質没尼ヨリ私知彪母ヲ分ツ法ハ安質没尼二分ニ消酸加里一分。生酒石三分

ヲ和シ烈火ニ煨キ流動スルヲ候ヒ上寛ク下窄キ
尖圓ノ型ニ脂蠟ヲ塗タルニ注ケバ則下底ハ私知
彪母中段ハ炭按生酒炭上段ハ硫化加里ニ私知彪母
少許ヲ含ム者ト爲ル

○合藥舍密云舍密家ニテ單ニ安質沒尼ト稱スル
ハ生安質沒尼ニ非ス皆私知彪母ナリ

私知彪母第二百四十五章

私知彪母
グ安質王 アンチモニス、コリーニン

私知彪母ハ白光アリテ銀ノ如ク質酥脆ニメ碎易ク

豊裂ノ處片々葉狀ヲ爲シ火ニ烱化シ易シ列氏三百四十五度

甘塙ニ納レ蓋テ熔シ火力足レバ昇華ス白酸化 蓋ハ
ズメ甘塙ニ烱セバ酸化ス

○私知彪母ハ異重六。八六零ノ如ク大氣ニ中テ甚

々鏽衣ヲ生セズ其昇華ハ白色ニメ雪華ノ如シ安

質銀華フロレス、アルゲンチ、スチビイ、スピ スガ

ランス、スチビイト名ク之ヲ燦化スレバ深黄ノ玻璃ト

爲ル之ヲ安質玻璃スチビイムト謂ヒ陶器磁器ノ黄

色釉ニ用フ第二章 ○帝奈爾度云白酸化安質ハ私

知彪母ハ十分酸素二十分ニ成ル ○紐氏韻府云私

知彪母ハ攝光千里鏡ノ鏡鑄活字料入ル

鹽酸安質第二百四十六章

シリアス、スチビイ、ソウト、シリ、ア
ンチモニイ、スロリ子、ム、スチビイ

安質ハ諸酸ニ溶解ス。細末トシ過酸鹽酸瀕。同量ヲ和

シテ、溜スレバ受器ニ酪狀ノ物出之ヲ安質酪アニチ

トボルト名ク即チ鹽酸安質ナリ

○紐氏韻府云。安質ノ微塵細末ヲ蘓魯林瓦斯内ニ

納レバ自ラ焚テ明光ハ的焰ヲ發ノ蘓魯林安質ト

爲ル此即チ先輩ノ所謂安質酪ナリ○按ニ本條ノ

法ヲ以テ溜スルキ溜器ノ頸ニ銀朱ヲ昇著ス之ヲ

安質朱ト謂フ其性常ノ銀朱ト少異ナシ

亞爾瓦碌知散第二百四十七章

ゲレイス、スピース、カラニス、エールステ、オキセイ
デ灰色第一酸化安質。ゲレイス、スピース、カラニ
ス、オキセイ、ラ、古名ク、ツキ、デス、レ、五、ン、ス
活瀕、ク、ツキ、デス、ド、ド、ス、死瀕、合藥問答云

此劑往時ハ昇瀕ヲ加、
製セリ故ニ此名アリ

鹽酸安質分ニ水分ニ分ヲ和スレバ白色ノ酸化安質沈

降ス之ヲ亞爾瓦碌知散ト名ク亞爾瓦碌知ハ意
太里亞ノ醫人ノ名

吐酒石 韃爾答律斯粵默知究斯第二百四十八章

左インスピーン、ガト、スピース、ガラン、ス、コーニ
グ、ゲ、スピース、ガラン、ス、デ、イン、ス、テ、ニ、フ、シ
一、レ、ボ、ト、ア、ス、ブ、ラ
一、ク、左、イン、ス、テ、一、ン

亞爾瓦碌知散ヲ酒石英ニ溶和スル者ヲ韃爾答律斯

卷七十一葉。酒酸安質加
里可合考

粵默知究斯ト謂フ

○葛氏舍密引並度歌乙摸韃爾答製法論云亞爾瓦
琿知散九錢ニ酒石英二弓半ヲ和シ餾水七十二弓
ニ煮テ蜜ノ稠トシ之ヲ餾水ノ沸湯三十六弓ニ溶
シテ澄ヲ取り其渣ヲ餾水ノ湯十二弓ニテ洗ヒ洗
水ヲ本澄ニ合シ煮テ乾セバ韃爾答二弓六錢ト爲
ル如此多量ノ韃爾答ヲ製シ得ルハ餾水ノ徳ナリ
常水ハ甘冽ノ泉ト雖モ必ス加爾基分アリ此加爾
基酒石酸ニ和ノ大ニ酸性ヲ敗リ且無用ノ酒酸加
爾基ヲ生ス○此韃爾答一弓ニ精製消酸加里等量

ヲ研和シテ熾紅ノ甘塙内ニ投スレバ嗶チハスル聲
ヲ發メ燒灰ト爲ル之ヲ他ノ淨楚ナル甘塙ニ移シ
炭末ヲ摻ケ瓦坯ヲ覆テ通紅ニ煨バ泡漲ノ竟ニ流
動ス於是滲リニ炭末ヲ摻ケ八分時烈火ニ爍シ火
ヨリ出セバ精美ノ私知彪母一錢ヲ得

結爾默斯密涅刺列第二百四十九章

スチビウム、ヒドロチオニキセイ、ガランズ
スワール、ワートル、スピース、ガランズ
グ、ヒドロシルハス、アンチモニ
生安質没尼ヲ苛性加里液ニテ煮テ冷セバ赤色ノ粉
沈降ス之ヲ結爾默斯密涅刺列ト謂フ

○廣義云結爾默斯ノ製法。燥濕兩道アリ燥道ノ法ハ精製加里。生安質各四分。硫黃華四分一ヲ和シ甘塙ニ納レ蓋テ焔シ鍊鉢ニ傾ケ冷シテ搗末シ此末ニ沸湯五十倍ヲ注キ八分時間。手ヲ駐メズ攪セ煮少時攪動ヲ歇メ熱ニ乘メ無膠紙ヲ襯タル布ニテ漉シ冷セバ漉澄中ニ赤粉ヲ沈降ス鍋ニ殘ル滓ニ又水ヲ加ヘ前ノ如ク煮テ漉シ又沈粉ヲ收ム如是スル一數回ニメ沈粉ヲ一漉布ニ集メ清水ヲ以テ洗ヒ微温ヲ以テ陰乾シ曇子ニ固封シ貯フ

濕道ノ法ハ生安質細末一分ニ硫黃四分一ヲ和シ

苛性加里。清水各二十倍ヲ以テ煮。沈粉ヲ得一前ノ如クス○或煮法ヲ用ヒズ鹽酸安質ニ硫化加里滷ヲ和スレバ加里ハ鹽酸ニ和シ半酸化安質ハ硫化水素ニ和シ結爾默斯ヲ生ス

主功金硫黃ニ同シ

附録 金硫黃

スチビウム、ヒドロチオニキウム、オキセイ豆ム、ヒドロチオニキウム

シルヒレム、オキセイ豆ム、ヒドロチオニキウム、ヒドロチオニキウム、シラエム、デナエム、オランエム、ウリ、スチビイ、ヒドロチオニキウム、スチビイ、シラエム、ヒドロチオニキウム、ヒドロチオニキウム、シラエム、ヒドロチオニキウム

○結爾默斯。金硫黃共ニ酸化安質ニ硫化水素瓦斯ヲ含ム者ナリ但其酸化ノ色。硫化水素瓦斯ノ多少同ガラザルノミ○帝柰爾度ガ二物ノ成分比例ニ

結爾默百錢ハ赭色酸化七十七分六厘硫化水素瓦斯七十二分八厘

金硫黄百錢ハ橙色酸化六十八分硫化水素瓦斯七十二分

○此劑ヲ以テ銀器ヲ磨擦スレバ黄金色ヲ發ス故ニ金硫黄ノ名アリ

○硫化安質酸化 ビニルヒレ、エム、カルキ、ス、チ、ス、ア、ン、チ、モ、ニ、イ、シ、ル、ヒ、ラ、タ、カ、ル、キ

和蘭局方精製半炭酸加爾基十六分。生安質没尼。硫黄各四分。右擣末ノ甘堀ニ納レ其上ニ半炭酸加爾

基厚寸許ヲ覆テ爐ニ安シ紅煨スルヲ四分時取出シ覆タル加爾基ヲ除キ下ナル赭色ノ燒灰ヲ石臼ニテ擣末シ壘子ニ固封ス

○安質雜腹蘭 イコ、ロ、キ、ス、ア、ン、チ、モ、ニ、イ、セ、ル、ハ、ロ、ン、ス、ピ、ー、ス、ガ、ラ、ス、メ、タ、ー、ル、サ、フ、ラ、ン

生安質没尼。消酸加里。各等量ヲ各別ニ研末シテ和勻シ少許宛取テ熾紅ノ甘堀ニ投シ投シ了テ甘堀ヨリ出シ白色ノ處ヲ去リ赭色ノ處ヲ細末シ清水ヲ以テ洗淘シ乾シ貯フ

○安質没尼惹波列 オ、キ、セ、イ、エ、ム、ス、チ、ビ、イ、ノ、ン、ア、ブ、ロ、エ、ム、ウ、ツ、ト、カ

リホウウデンデスピース
ガランスオキセイデス

生安質一分。消酸加里二分半ヲ各別ニ研末シ和勻
シ少許宛取テ熾紅ノ甘堀ニ投シ鍊筋ヲ以テ攪セ
投シ了テ尚八分時ノ間火中ニ置キ研末シ固封貯

○私知彪母ニ消酸加里ヲ和シテ煨ク者亦安質没
尼惹波列ナリ之ヲ鑛性植達石ベソアルヂキムミ

ストッ左レイ又安質粉アセーチモニト名テ常品ニ別

○安質没尼惹波列ヲ清水十倍ニ和シ硫酸ヲ加テ
加里ニ飽シメ酸化安質ヲ沈降シ清水ヲ以テ數々
洗澱ヲ洗ヒ洗泔味無ニ至テ乾ス之ヲ洗過安質没

尼惹波列スチビウムヂアポレチキムアブト名ク

○洗泔ニ硫酸ヲ加ヘ飽シメ沈降セル粉ヲ眞珠粉

マテリアルペルストラフト謂ヒ硫酸ヲ加ズ煮テ込ヲ結

シメタルヲ安質消石キリスタルリヤムニイト名

ク即硫酸加里ナリ○込ヲ結シメズ煮乾シタル者

ヲ暱多律母安質没尼印斯碧斯沙去母ト名ク硫酸

加里。消酸加里。酸化安質ノ三物。清雜スル鹽ナリ

酸化滿俺第二百五十五章

ペーロオキセイミ、マンガ子シイ、ニグムムナ
最高度酸化之滿俺色

滿俺原麻 偃同麻 涅偃母 叟偃母 署署 苦土 新新 名名 改改 ハ 金屬ナレ

氏天然ニ金形ヲ爲ス者莫シ多分ニ酸素ヲ含テ酸化

シ黑色ノ鑛石ト爲テ産ス之ヲ蒲呂印斯的印ト名ク

○此黑鑛ヨリ金分滿ヲ分ツ法ハ其鑛ヲ細末シテ瀝

青ヲ和ノ甘燭ニ納レ燭内ニ木炭末ヲ布テ厚四分

周圍ニ繞ラステ厚十分寸トシ尙空隙アレバ炭末ヲ

填ノ密ニ蓋ヒ玻瓈窯ノ如キ烈火ニ煨テ半時ニ冷

シ燭ヲ壞レバ金形ニ還ル爾按ニ本說沙布答

○按ニ蒲呂印斯的印或ハ亞鉛鑛トシ或ハ石墨ノ

類トシ林娜斯ハ鐵鑛ノ屬トス一 種金屬ノ酸化一

ノ其金屬ハ一元素タルトハ近時ノ發明ナリ此鑛

初テ麻偃涅悉亞島ニ得タルニ因テ麻偃涅悉亞ノ

名アリ炭酸苦上モ白麻偃悉亞ノ名アリ故ニ之ヲ

黑麻偃涅悉亞ト稱ノ之ニ別ツ○榕藏弄スル船來

形狀色質生安質沒尼ニ錯亂シ外體全ク東針狀

スレバ手指ヲ汚ス石墨ノ如シ水ニテ浣バ黑粉

去テ鉛光ノ束針甚タ鮮美ナリ第三十圖ノ如シ

○玻瓈ニ加燭セバ其炭性汚物ヲ消シ雜色ヲ祛ク

ト猶錫布ノ膩垢ヲ去カ如シ故ニ玻工錫布トササホヒ

ノ別名アリ綠色下品ノ玻瓈四錢ニ此鑛一氏半ヲ

加燭セバ已ニ瑩白ト爲ル況ヤ尋常玻瓈ノ汚色ヲ

消除スルニ於テハ僅ニ加テ足ルヲ知ベシ多加ハ
却テ青色或紫色ヲ發ス

○廣義利母滿氏之還元法云酸化滿俺ノ細末ヲ亞
麻油ニテ煉捏シ礬土木炭末ヲ以テ裡面ヲ墁タル
甘塙ニ納レ蓬酸曹達ノ細末ヲ撒ケ樺炭末ヲ其空
隙ニ填メ鼓鞴ヲ設テ一時許間煨バ盡ク酸素ヲ脱
メ還元ス

滿俺第二百五十一章

滿タール 履紐 母マ 子シ ガウ ンム 子シ ウム 子シ アメ タール ンム

滿俺ハ澹灰白色ニメ破折ノ處光輝アリ大氣ニ中レバ

黑色ノ粉ニ化ス即チ酸化滿俺滿的印ナリ○酸化滿
俺ヲ列篤爾多ニテ乾餾スレバ酸素瓦斯ヲ發ス硫酸
ヲ加ヘ餾スレバ更ニ之ヲ發シ易ク且多ク發ス三十一

○廣義云滿俺ハ蒼灰色ニメ光輝アリ質堅剛キ
鐵ニ亞キ脆ノ碎易シ餾水ヨリ重ト七倍許破摧ノ
處粟紋ヲ爲ス越素及瓦爾華氣ヲ導引ス

滿俺ノ酸化數度アリ各等ノ酸化ヲ爲ス今百比ノ
滿俺黑色ニ酸化スレバ其量増メ百六十八比ト爲
ル然則本質半量餘ノ酸素ヲ受ク水槽ヲ裝メ之ヲ
餾スレバ其酸素瓦斯ト爲テ鐘内ニ出其滿俺

淡色ヲ爲ス之ヲ大氣ニ曝セバ復タ氣中ノ酸素ヲ引テ黑色ノ酸化ト爲ル

滿俺和酸第二百五十二章

滿俺ハ諸酸中特ニ消酸ニ容易シ其溶液ニ亞爾加里ヲ加レバ白粉ト爲テ沈降ス○黑色酸化滿俺ハ己ニ酸素ヲ含テ大過ナルニ因テ復タ消酸ニ溶ケズ消酸ニ蔗糖少許ヲ和シ溫溶セバ乃溶和ス

○廣義云滿俺ハ鐵分ヲ含ム者多シ消酸ニ浸セバ劇ク沸漲ノ消石瓦斯ヲ發メ溶和シ赭色ノ液ヲ爲ス此レ其本來ノ色ニ非ス所含ノ鐵分ノ色ナリ但

シ黑色酸化ノ滿俺ハ消酸ニ僅ニ少ク溶ケ硫酸ニハ甚タ溶難シ蓋シ己ニ多分ノ酸素ニ飽テ復タ酸素ノ需無キガ故ナリ之ヲ溶サント欲スル酸精ニ蔗糖或蜂蜜等凡ク酸精ノ酸素ヲ奪除スル物少許ヲ加レバ則其酸精。酸素ヲ脱メ亞性酸ト爲リ此亞性酸ニ化滿俺ノ酸素ヲ稟ケ全性酸ト爲テ夫酸素減少セル滿俺ヲ溶解ス

製酸化鹽酸理第二百五十三章

黑酸化滿俺ヲ常ノ鹽酸ニ加テ溜スレバ鹽酸其酸素ヲ稟テ酸化鹽酸ト爲ル

○按ニ舊說ナリ其義第百二十一章ニ増注セリ

燂和蓬酸曹達第二百五十四章

酸化滿俺ニ蓬酸曹達ヲ和シ吹管ヲ以テ鼓煽シ燂ハ其焰内心色無ク外面青シ或ハ消酸加里少許ヲ加ヘ燂スモ亦然リ

鑛性加默良第二百五十五章

外篇ニテ

カメレオンニ子ラリス、ミ子ラレ、カメレオン○按ニ如默良ハ漢名蠃蜓一名十二時蟲○坤輿外紀云亞細亞州如德亞國產獸名加默良皮如水氣明亮隨物變色海鳥逸誌云蠃蜓狀如蜥蜴長五六寸身高脊騰尾長鱗細其行甚捷棲於綠葉之上則其身之色青行於灰則身之色白行於炭則身之色黑其身能隨地之色而變幻○蘭山翁豫州產守宮一種七分蛇ヲ以テ十二時蟲ニ近シト云

按昔小蛙モ漸々其腹テ色ヲ變ス

酸化滿俺細末分ニ消酸加里細末分ヲ和シ甘堁ニテ

燂ケバ消酸加里分離シテ酸化滿俺ト加里ノ和合物

ト爲ル○此劑奇性アリ水ニ點スレバ水ノ多少ニ隨

テ色ヲ異ニス水少キハ綠色ト爲リ水多キハ青

色ト爲リ漸ク紫色ニ入り終ニ紅色ニ變ス其色ノ多

様ニ渝變スルヲ加默良ノ如シ故ニ之ヲ鑛性加默良

ト名ク○但些ノ硫酸氣アレバ此性脱ス

○廣義云鑛性加默良ハ水中ノ游酸ヲ驗スル試藥

ニ用フ其用法外篇ニ詳載ス

和硫酸磷酸第二百五十六章

滿掩。硫酸或燐酸ニ溶解スル液ハ玫瑰色ニシテ其色日
光ニ遇ハ消褪シ暗處ニ置バ復タ紅色ヲ生ス蓋シ滿
掩。太陽ノ光素ニ因テ其酸素ヲ脱スルガ故ナリ 第十章
○廣義云硫酸滿掩ニ様アリ其一ハ酸素最少キ者
ニシテ色無シ其一ハ酸素最多キ者ニシテ深堇花色 細色

舍密開宗内篇卷十四終

中味堂高橋
圖書之印

